

「結いの里十周年記念講演会のご報告」

講師と報告者紹介

- **沖田裕子先生**は、介護保険などではニーズの満たされない若年性認知症の人や家族支援を主に行うために、特定非営利活動法人「認知症の人とみんなのサポートセンター」を大阪市東成区に設立。認知症の本人交流会・意見募集・生きがいづくりを仲間と活動。また、NHKの「名医にQ」や「認知症フォーラム」に出演。講師依頼や雑誌の寄稿など多数。
- **内田陽子先生**は、群馬大学大学院保健学研究科准教授（専門は老年看護学・在宅看護学）、学生に人気があり＜ベストティチャー賞5回受賞＞。地域、在宅、施設、病院と老人の居る場所に足を運び、ケアやケアマネジメント、悩み事相談など実践を通じた問題解決に走り回っている。著書や研究論文など多数。
- **山崎京子**は、20数年都立病院勤務後、H7年に秋田県能代山本訪問看護ステーション所長に就任。H15年にNPO法人結いの里施設発足。認知症対応型通所介護、基準該当によるショートステイ事業など施行。H9年に内田陽子氏と出会い、長年共同研究を行い学会・雑誌等で発表。

講演内容の紹介

- **沖田裕子先生**は、演題を「**認知症の基本ケア—今、求められる認知症の人や家族への支援とは—**」と題して、①国の「認知症施策推進5ヵ年計画（オレンジプラン）」や②行政を巻き込んで若年性認知症の施策強化の取り組みとして「若年性認知症支援のハンドブックの作成」「居場所作り」「ニーズ把握」「就労支援」など、若年性の特徴を捉えサポート活動をしている。③また、介護職のバックアップや専門職でも手に負えない介護・看護の問題を解決する仕事にしている。本当に沖田先生が活動されている地域の皆さんや介護&看護職の方たちにとっては、心強い限りである。最後に「里の秋」を皆で合唱して和やかな雰囲気のなか講演を終えた。
- **内田陽子先生**は、演題「**認知症になっても最後まで我が家で暮らせるまちづくり—群馬県の取り組み、じゃんけんぼんの取り組み、内田の研究—**」と題して、①認知症とは？」「目指すこと」「認知症・日頃からの備え」などや、特に「認知症の人への対応」では、ご自分の母親から、“やさしく接すること”の大切さを学んだことや“認知症の人は環境やケアによって改善できる点が多々ある”ことを内田氏の研究で証明した。②「認定NPO法人じゃんけんぼんの地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み」について話された。＜超高齢化社会において誰もが避けられない加齢・高齢化について、元気なうちから連続的に自助・互助・共助で支えるシステム作りを目指す＞ことを目標に頑張っておられるじゃんけんぼんの井上理事長のすばらしい各事業（みんなの居場所

の「近隣大家族」、配食サービスの「こころまち弁当」、他多数)を紹介された。

- **山崎**は、「**結いの里十年の歩み**」と題して、NPO 法人発足の動機を①二ツ井町社協主催の「ちょっと物忘れミニディサービス」にボランティアで参加協力した経緯と②「看護師も企業家をめざせ」のスローガンに触発されたこと ③米のピッツバーク市に NPO タワーを建設し、60 の事業所、1,500 人の雇用を生み、第二の市役所と言われた某企業家の取り組み (NHK 放映) を見て感動し決意したことを話した。結いの里の今後の取り組みと展望は、国施策の「オレンジプラン」の中にある「認知症サポーター育成事業」や「認知症初期集中支援チーム」に参画し、活動の和を広げていきたい旨を報告した。

講演会出席者の感想

○ **利用者のご家族 (主介護者)**

①S さん (女性) : 認知症について全く知識のなかった生活から夫の介護に早 4 年。若い時から知識があれば、もっと違った介護が出来たのではないかと、思うこともあります。講演をぜひ若い人にも聞いて欲しいと思いました。

②A さん (女性) : 「あ〜んだんだ」「家でも同じ」「これから、そうなるんだ」と思いながらお話を聞いていました。今まで母の行動もわからずイライラばかりの毎日でした。講演を聴いて少し考え方が変わりました。母に対して優しく一とまではいかななくてもイライラせずに話しかけられるようになりました。ありがとうございました。

○ **各事業所の職員**

①Y さん (某ホームヘルプサービス事業所) : 貴重な講演を拝聴する事が出来て嬉しいです。内田先生のバイタリティーあふれるお話しはとても楽しかったです。認知症の人への対応として、おらかな気持で優しく接し、ちょっとした声かけや気配りを心掛け、褒めてあげられるようなケアをしていきたいです。

②某訪問看護ステーション : お二人の講師のお話は、認知症の方を理解しケアしていくためのポイントをわかりやすく教えて下さり、すぐ現場に生かせる内容でした。今後も結いの里が先頭きって認知症ケアを提唱して下さる事を期待しつつ、一緒に連携しながら住みやすい社会を作っていきたいと考えております。

③在宅総合・ケアサービス某事業所 : お二人の先生のお話は、ご自身のご家族の実体験や地域との取り組み等、身近な問題点への対応について話されとても解りやすかったです。沖田先生の国策のオレンジプランについて興味深く聞かせていただきました。これから益々認知症の人が増え認定看護師の育成や地域全体でどう支え取り組むかなど問題は山積んでいます。結いの里の目指される「ハンディを背負っても住み慣れた所に住み生活が出来よう、今後も率先して展開して頂きたいと思います。